



府連通信  
2017年11月号

日本中国友好協会  
大阪府連合会  
〒530-0012  
大阪市北区  
芝田2-3-19  
東洋ビル本館207  
TEL06-6372-8131  
FAX06-6372-8132  
郵便振替口座  
00970-5-8978  
E-mail: info@  
jcfaosaka.org  
http://  
jcfaosaka.org/

## 西安・延安を巡る

### 遣唐使の軌跡や、国共合作の舞台を訪ねる

遙かなる長安―全ての道は西320km、毛沢東(エドガー・ス安に通ず、日中交流の先駆者、遣隋使・遣唐使の軌跡や、国共合作の舞台を訪ねる旅でした。延安は75年前に日本の民主と平和が始まった地点でもあります。北京空港では、共産党大会開催のため厳重なチェックをうけ西安へ。

兵馬俑(1・2・3号坑・銅馬車館)秦始皇帝陵、八路军西安弁事処記念館、武帝の墓や楊貴妃の墓、八路军西安弁事処記念館などを見学。

西安から長征終着の地・延安へ



大阪府連は活動資料を渡し説明、その中で興味を示されたのが中国百科検定試験と南京問題への取り組みで、大いにこれらの活動を強めてほしいと言われました。また貴協会は自前の組織、財政で行われているが、私たちは中国政府のもとで行っているもので、とても尊敬すると言われました。双方とも今後は若者をいれてもっと活発な交流を行って行く必要性では一致し、陝西省『トキ』の関係行事の時には招待をしたいと、和やかに会談を終えました。(平松悦雄)

## 府連第1回理事会開く

11月5日大阪府連第1回理事会が、大阪市内で20名が参加して開催されました。石井勉さんを議長に選出し、渡辺武会長の開会あいさつ、松尾豊理事長の議案提案、片山英徳副理事長が会計中間報告を行い、提案に対する質問・討議を行いました。府連大会から四か月、不再戦平和活動や太極拳、中国語、きりえ活動などの文化活動、堺支部の再建など組織強化などについて討議を深めました。



11月26日の「80年目の南京」集会や来年三月実施の「第四回中国百科検定」などの当面する課題を成功させ、一日も早く500名をこえる仲間づくりと新支部作りなことが討議されました。

## 事務局長の役割と責任を研修

10月28〜29日、大阪市内で事務局長会議が開催されました。岡山、愛知、関西各支部の事務局長や事務局次長31名が熱心に4つの本部報告をうけ、グループ討議をおこないました。

参加者から「協会の歴史、役割、中国事情を改めて学べた」「知りたい聞きたいことが話されたので参考になりました」



事務局長に求められる役割と責任では、「一番聞き取った分野ですが、一般的抽象的で具体性が乏しかった。困難だと思えますが」

2018年

中国悠久の旅  
カレンダー発売中  
B3版13枚綴り  
定価1200円  
企画・制作  
日本中国友好協会



## 「80年目の南京」つどい

11/26(日)14:00〜ドーンセンター大ホール  
新作ドキュメンタリー上映/証言/講演会  
◇「映像・外国人が見た南京大虐殺」  
◇元兵士証言「兵士が眼にした南京大虐殺」  
◇新聞記者のトーク「記者が報じた南京大虐殺」

# 戦地からの手紙―父と日中戦争

## 講演とシンポ 続報

今年1937年に日本が中国に侵略戦争を開始し、南京大虐殺をおこなって80年です。大阪府連と再出発した女性部の主催で、10月8日、表記の講演とシンポジウムが、大阪市のドーセンターで開かれました。

戦地の兵士から届く郵便物といえ、かつての日本では、すべて「検閲」され、反戦的な内容があれば、厳重な罰を受けるもの、と思われています。講師・紅谷章子さん(元大阪夕陽丘学園高校校長)が、仏壇の奥深くかくされていた120通もの父の手紙を発見したとき、驚きにドキドキしながら、手を震わせて読んだと書かれています。うなずけます。

1937年7月、盧溝橋事件の直後に日中戦争に召集された独身時代のお父さんは、控えめながら戦争の悲惨さを語り、輜重兵として食糧集め(現地での強制調達)、朝鮮や中国の民衆のめじめな生活ぶり、ひたすら召集解除になって日本の家族のもとへ帰りたい気持ちなど、よくぞ検閲が通ったものだと驚かされる内容の手紙を家族に送られました。戦争の現実を伝えるとともに、加害と被害を見つ

め、いまの私たちに日本の社会のあり方を問いかけるものでもありました。

65名の参加者は、興味深い講演と、手紙やがき、召集令状、勳章などの遺品の展示にも熱心に見入っていました。「父の手紙はかなりの本音が吐露されている。しかし、軍隊のなかでの真実―上官の暴力や制裁・捕虜や民衆の殺戮・女性への暴行・慰安所の存在など―本当のことは書かれていない」と紅谷さんは言われました。

日本は、広島・長崎の原爆投下など被害に遭ったことは誰もが忘れなくても、加害者としての行為は忘れられたり、知らされなかったり、間違った受け取り方を押し付けられ、加害者としての日本の戦争責任を言われることが少なくありません。



紅谷さんの講演と著書『戦地からの手紙―父と日中戦争』は、安倍政権が憲法9条改悪を企図

する今だからこそ、平和を願う私たちは多くを学んだ集会となりました。

講演のあとパネラーとして、小畑哲雄さん(90歳)から陸軍経理学校から終戦末期の軍隊生活のこと、竹端英美恵さん(80歳)から従軍看護婦としての経験などの話がありました。

なかでも、大阪大学大学院助教で中国人の鄒燦(スウ・サン)さんの「日中戦争をめぐる日中の相互で加害と被害の認識のずれ」「日本は加害者意識が薄い」「日本人学生も被害者意識がある」「日本人はアメリカとの戦争に負けたと言うが、中国人は『日本を負かせたのは中国だ』と思っている」これらのミゾをどのように見るべきかなどの、興味深い報告がありました。(藤崎光子)

## 総がかり行動で 2万人コール



11月3日午後、中之島芝生公園で「9条改憲許さない・おおさか総がかり集会」に、2万人が参加して開催されました。4野党代表が野党と市民の共同で安倍政治を終わらせようと訴えました。ゲストスピーカーとして佐高信さんが東京から駆けつけ、各分野の代表がリレートークしました。集会後「憲法こわすな」「戦争アカン」のポテッカードを掲げて3コースに分かれてパレードしました。大阪府連は2カ所に分かれて8名が、26日の「80年目の南京」集会のピラをまいて参加を訴えました。府連から集会には16名が参加しました。

## 記念きりえ美術展開催

第40回全大阪きりえ美術展を、10月18日まで大阪市立住まいミュージアム・ギャラリーで開催しました。会期中は雨の日が多く、最終日は台風接近のため、午後には閉館となり、入場者も1千名にはなりません。第40回を記念して「大阪のきりえVII」を発売しました。A4版104ページで定価二千円、93名の作品をカラーで掲載しています。



連絡会代表前田尋さんの「バスを待つ(妙見)」や近藤好幸さんの「富田林寺内町・興生寺別院」など多彩なテーマの作品が収録され、巻末には美術展の概要や連絡会の活動の歩みも紹介されています。(近藤好幸)

## 日中友好太極拳練習会in門真

12月10日(日) 10:00~16:30

門真市立総合体育館 京阪電車「古川橋」

参加費：2000円

太極拳が上手になる基礎から学ぶ基本功

種目別練習24式、48式、各2クラス